

研究機関名：東北大学

受付番号： 2015-1-796
研究課題名 表在型バレット食道癌の多発因子の検討
実施責任者（所属部局・分野等・職名・氏名）： 東北大学病院・消化器内科・講師 小池 智幸
研究期間 西暦 2016年3月（倫理委員会承認後）～ 2020年12月
対象材料 <input type="checkbox"/> 過去に採取され保存されている人体から取得した試料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名： ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名： ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（ ） ■研究に用いる情報 ■カルテ情報 <input type="checkbox"/> アンケート ■その他（内視鏡画像） 対象材料の採取期間：西暦 2001年1月～西暦 2015年11月 対象材料の詳細情報・数量等： （対象疾患名や数量等の詳細を記すこと。多施設共同研究の場合は、全体数及び本学での数量等を記すこと。）  バレット食道癌（初回内視鏡治療例） 対象患者数 57例
研究の目的、意義 近年、本邦におけるバレット食道癌の発生報告が増加しているが、欧米に比較してその頻度は極めて低い。特にバレット食道癌の多発例の報告は少なく、多発のリスク因子についての検討はない。当院において内視鏡治療を施行した症例を対象に多発リスク因子を明らかにすることを目的とした。
実施方法 2001年から2015年11月までに当院で内視鏡治療を施行した表在型バレット食道癌57症例をBarrett食道癌単発群と多発群に分類し、性別・年齢・BMI・喫煙・飲酒・内視鏡所見（食道裂孔ヘルニアの有無、逆流性食道炎の有無、バレット粘膜長、病変の方向）・H.pylori感染の有無・酸分泌能についてretrospectiveな比較検討を行いBarrett食道癌多発のリスク因子について考察する。
研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手・閲覧方法 本研究では、調査対象者の特定が可能な情報は提供されず、調査対象者は調査対象となることを拒否できる。 また、研究計画書及び研究の方法に関する資料に関しては、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内に限り入手又は閲覧が可能であり、その入手・閲覧をご希望される際には下記研究事務局までご連絡頂く。
個人情報の利用目的の通知に関する問い合わせ先

